



地域おこしや町おこしは日本中どこでも取り組んでいて、よ

ほどの特徴がなければ注目してもらえない。町おこしの代表格である観光に関してアイデアを振り絞って頑張ってもそうは問屋が卸さないのが実情である。

昨年来大分県では九重町の「夢大吊橋」が予想以上の大成功を収めているようだが、「日本一」というセールスポイントもいずれば他に譲らねばならぬ時がくるだろう。観光地にとって人気を長続きさせることが最も困難な課題だという。

わが豆田町もひな祭りを目玉商品におよそ二十年以上、比較

的順調に観光地としての地位を築いてきた。しかし、近年は多くの町でひな祭りをするようになり、その特性も薄れてきたように思う。

豆田町は上町通りと御幸通り

豆田町改造



草野 義輔

のかと感動したものだ。

もともと豆田町は歴史的景観を売り物にしているので電線や電柱が景色に合うはずがない。

また古いが故、道が狭いので

電柱を撤去するには周辺の個人所有の土地を配電機器設置のために提供しなければならない。

地域住民が趣旨に賛同し実質的な協力がないと実現しない埋設工事であるが、御幸通りの工事が見事な結果に終わったことから上町通りも賛同者が増え、今回の工事につながったようだ。

二年後には両町の電柱が無くなり、広々とした空の下新しい豆田町が完成する。こんな努力が観光地としての次の活力につながることを願いたい。

(豆田市昭和学園高校理事長)